

第3章

緑の解析・評価と課題の整理

及び市民アンケートの結果



吉浦神社のスギ

第3章 緑の解析・評価と課題の整理及び市民アンケートの結果

3-1 系統別の解析・評価

緑が都市において果たす一般的かつ主要な機能として、「環境保全」、「レクリエーション」「防災」「景観形成」の4つがある。これらの機能を持った緑がネットワークを形成することにより、緑の機能が効果的に発揮される。またこれらに本市の特徴である歴史や温泉地という観光資源を含め、ネットワークを形成することが望ましい。

そこで、前段までの本市の緑の状況を機能別に整理し、課題を抽出することとする。

■各機能の分析評価の視点■

環境保全の分析・評価の視点

- 都市骨格の形成
- 優れた歴史風土
- 優れた農林業地
- ヒートアイランド等の都市環境の維持・改善
- 優れた自然
- 快適な生活環境
- 動植物の生息環境の保全

レクリエーションの分析・評価の視点

- 余暇特性と緑
- 日常圏におけるレクリエーションの場
- 広域圏におけるレクリエーションの場
- 自然とのふれあいと緑

防災の分析・評価の視点

- 自然災害の危険防止
- 避難地
- 人為災害の危険防止
- 防災活動拠点の確保

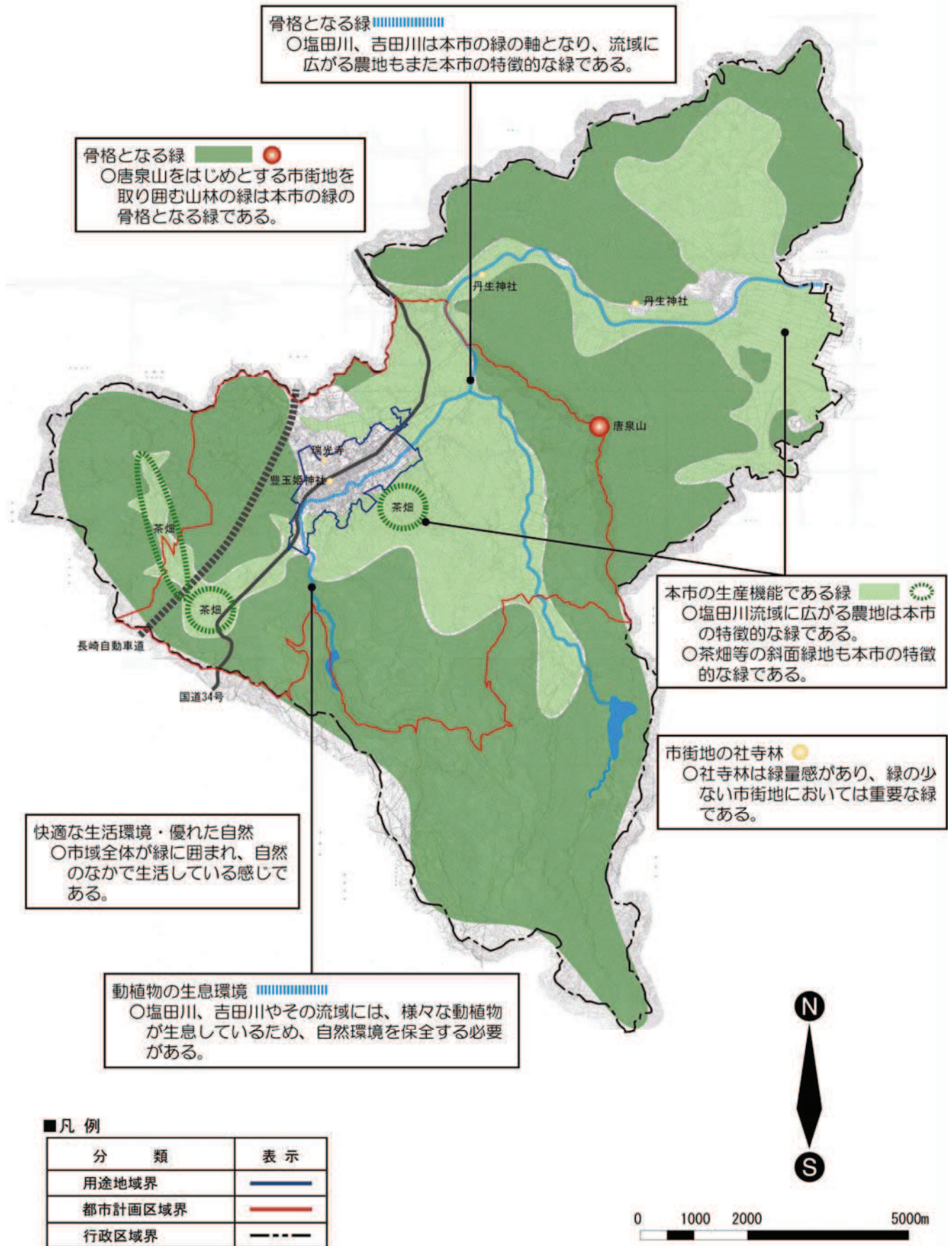
景観形成の分析・評価の視点

- 本市を代表する景観
- 優れた景観の眺望点
- 新たな景観の創出が必要な地区
- 地区や住区の良い景観
- ランドマークとなる場所

その他の分析・評価の視点

- 本市を代表する歴史と緑
- 観光資源と緑

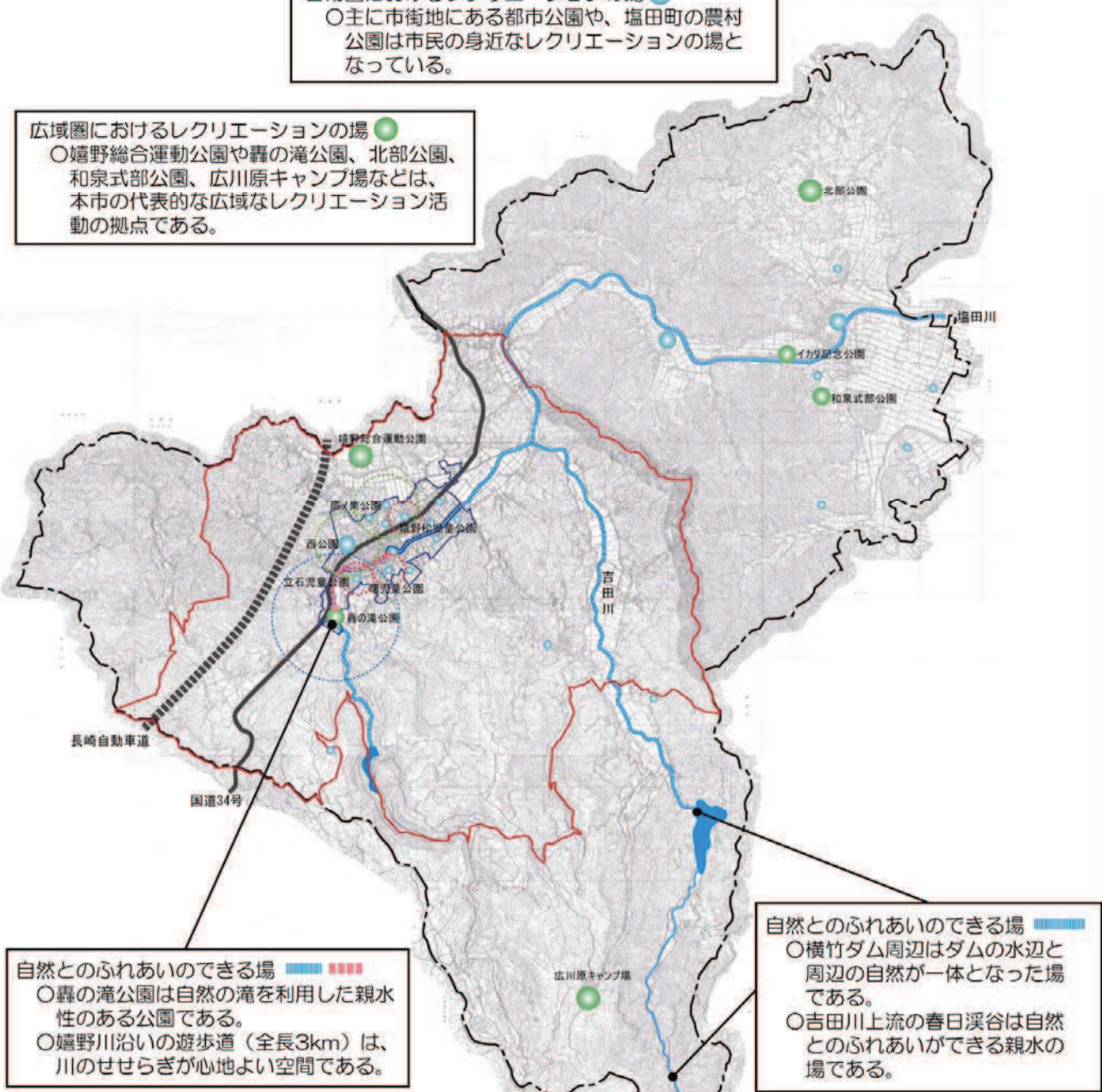
解析・評価－環境保全



解析・評価－レクリエーション

日常圏におけるレクリエーションの場 ●
 ○主に市街地にある都市公園や、塩田町の農村公園は市民の身近なレクリエーションの場となっている。

広域圏におけるレクリエーションの場 ●
 ○嬉野総合運動公園や森の滝公園、北部公園、和泉式部公園、広川原キャンプ場などは、本市の代表的な広域なレクリエーション活動の拠点である。



自然とのふれあいのできる場 ■■■■
 ○森の滝公園は自然の滝を利用した親水性のある公園である。
 ○嬉野川沿いの遊歩道（全長3km）は、川のせせらぎが心地よい空間である。

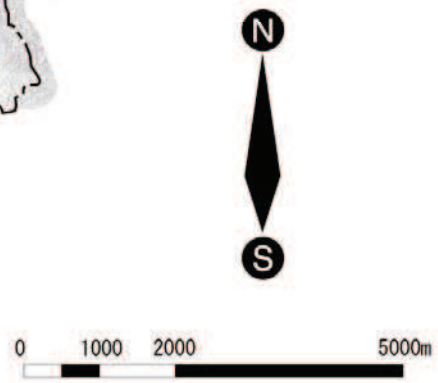
自然とのふれあいのできる場 ■■■■
 ○横竹ダム周辺はダムの水辺と周辺の自然が一体となった場である。
 ○吉田川上流の春日溪谷は自然とのふれあいができる親水の場である。

■凡例

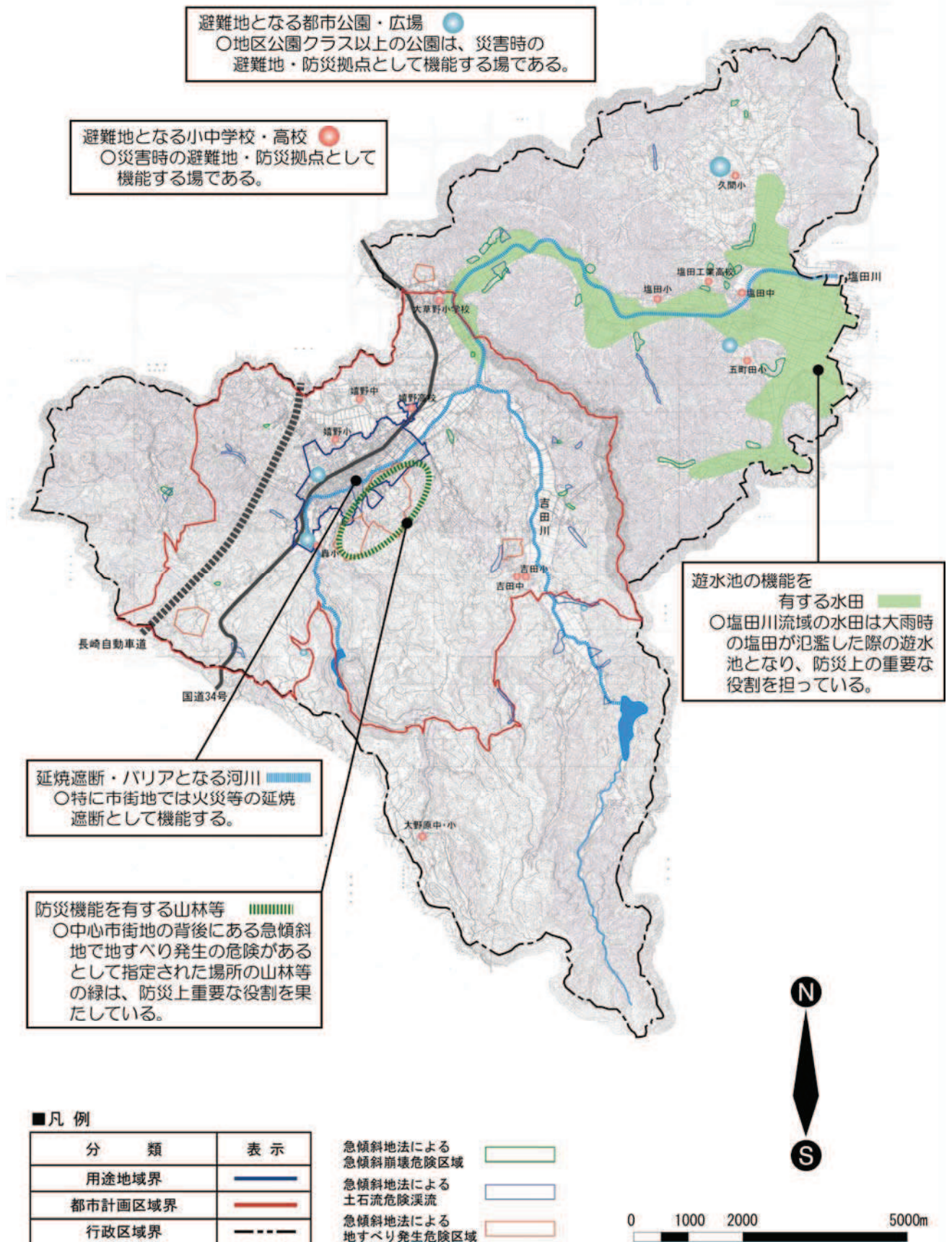
分類	表示
用途地域界	———
都市計画区域界	———
行政区界	- - - - -

都市公園誘致距離

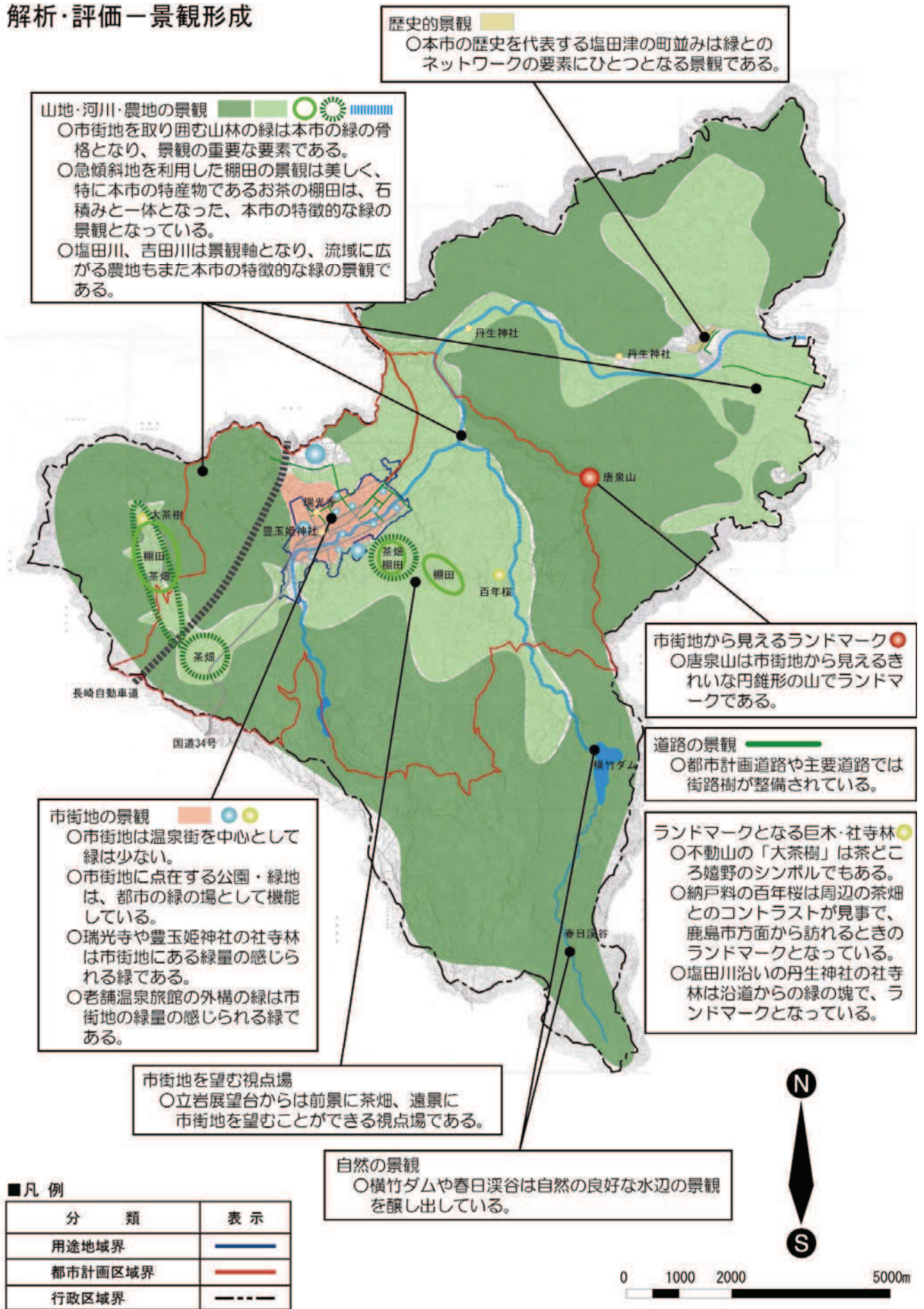
- ：街区公園（半径250m）
- ：近隣公園（半径500m）
- ：地区公園（半径1000m）



解析・評価－防災



解析・評価—景観形成



■評価できる代表的な緑—環境保全■

○市街地を取り囲む緑の骨格を形成する山林



○茶畑等の斜面緑地



○生物の良好な生息環境になっている塩田川



○岩屋川内川で見られるホタル



○田園風景



○歴史を感じる緑豊かな社寺林（瑞光寺）



○歴史を感じる緑豊かな社寺林（丹生神社）



■評価できる代表的な緑ーレクリエーション■

<p>○広域圏におけるレクリエーションの場 (嬉野総合運動公園)</p>	<p>○広域圏におけるレクリエーションの場 (広川原キャンプ場)</p>
	
<p>○日常圏におけるレクリエーションの場 (和泉式部公園)</p>	<p>○自然とのふれあいができる場 (轟の滝公園)</p>
	
<p>○自然とのふれあいができる場 (横竹ダム)</p>	<p>○自然とのふれあいができる場 (遊歩道)</p>
	
<p>○日常圏におけるレクリエーションの場 (街区公園・近隣公園等)</p>	<p>○日常圏におけるレクリエーションの場 (イカダ記念公園)</p>
	

■評価できる代表的な緑—防災■

○延焼遮断となる塩田川	○遊水池となっている広場
	
○遊水機能を有する水田	○避難地となる学校（轟小学校）
	
○避難地となる公園（轟の滝公園）	○避難地となる広場（北部公園）
	

■評価できる代表的な緑—景観形成■

○市街地を取り囲む山林（視点場となる立岩展望台からの風景）



○塩田町の広がりのある田園風景



○ランドマークとなる唐泉山と自然豊かな塩田川



○石積みと緑の美しい棚田風景



○伝建地区に指定された塩田津の町並み



○市街地内の良好な緑（豊玉姫神社の社寺林）



○市街地内の良好な緑（旅館の外構）



3-2 緑の課題

●本市の特色である山林・川・農地の緑の保全

- 市街地を取り囲む山並みや山林は、本市の特徴的な景観を形成している。景観を保全するためにも森林の保全が必要であるが、林業施策によって進められてきた針葉樹の植林も、後継者不足等による問題で、維持管理も困難な状況となっている。
- 山林は針葉樹の植林等によって、四季の彩が感じられない単調な景観を形成しており、観光を基幹産業とする本市としてのまちづくりにおいて、緑のあり方の転換を図る時期に来ている。
- 市域を横断する塩田川は、市街地では温泉街の旅館街と一体となった市街地の景観を持ち、市街地を抜けると流域に広がる水田と一体となり、本市の景観の重要な要素となっている。轟の滝公園は、この川を利用した親水性のある公園であり、水辺環境も含め保全する必要がある。
- 田園風景はふるさとの原風景であり、貴重な緑でもあるので保全する必要がある。また、環境保全や防災面においても、重要な役割を果たす緑である。
- 山林や川、農地は人だけでなく自然生物にも必要な緑である。本市では塩田川の上流や支流の吉田川で、ゲンジボタルの生息が確認されている。こうした野生動植物との共生のためにも、山林や川、農地の緑は保全する必要がある。
- これらの緑を保全するためには、ただ守るということだけでなく、人の手で良好な状態に育て守ることが重要である。

●歴史のある緑の保全・活用

- 嬉野温泉街の近くにある瑞光寺の山門前にあるクスノキは、推定樹齢 800 年といわれ、境内の周りの木々とともに、市街地の緑を演出している。また、百年桜や天然記念物でもある大茶樹はふるさとのシンボルであり、ランドマークともなる。こうした歴史のある緑は、保全とともに活用することも必要である。
- 本市には歴史的建造物や天然記念物など、数多くの歴史資源が分布している。ふるさとの歴史を継承するためにも、保全・活用することが必要である。



●災害に寄与する緑の確保

- 本市にある都市公園やその他の公園緑地は、災害時の避難地となりうる場所である。新規で整備する公園・広場は、全体のバランスを考慮し配置することが必要である。
- 本市には、急傾斜地崩壊危険区域や土石流危険区域、地すべり発生危険区域に指定される危険な場所がある。こうした斜面地の耕作物の緑は、良好な地盤を保つためにも重要であり、保全する必要がある。

●市街地の緑の確保と創出

- 市街地の緑の中で、老舗温泉旅館の外構などは、良好な景観でもあり、緑量感も感じられる。
- 本市の中心市街地は観光地でもあり、多くの観光客が訪れるところである。現況は雑然としており、視界に感じる緑はほとんどなく、緑化できるスペースもない状況である。面的な緑地の確保は難しいが、ポイント的な緑（鉢植えやプランターなど）を住民の協力を仰ぎながら検討する必要がある。



■温泉旅館の外構の緑■

●市民のくらしに身近な緑の充実

- 都市公園やその他の公園・緑地については、少子化や高齢化といった社会情勢も考慮し、老朽化している既存公園のリニューアルの検討が必要となってきている。
- 現在の都市公園の配置については、やや偏った配置となっている。今後は防災面からも、地域バランスに配慮することが必要である。
- 社寺林や里山、ため池などのまとまった緑は、普段とくに意識することなく目にする緑であるが、身近な緑として保全に努める必要がある。
- 公共公益施設は、地域のシンボルとなるので、緑化のモデルとなるように整備することが望ましい。



■嬉野市コミュニティセンター■

●緑のまちづくりの促進

- 「22世紀アジアの森」での緑化活動や、企業や市民での身近な緑化活動は、緑豊かなまちをつくり、市民の健やかな生活につながる。市民や企業が主体的に、緑のまちづくりができるような道筋を示すことも必要である。
- 現在行われている諸活動を緑のまちづくり全般に広げるために、ボランティア活動などの支援、情報提供、緑の環境教育に取り組む必要がある。

3-3 市民アンケートの結果

平成 21 年 10 月に「嬉野市の都市・緑のあり方について」の市民アンケート調査を行った。この中で、市民の「緑」に対する印象、考え方を問う設問について抜粋し、調査結果をまとめてみると、以下のような市民の緑に対する意識と緑化活動などの行動意識がうかがえる。

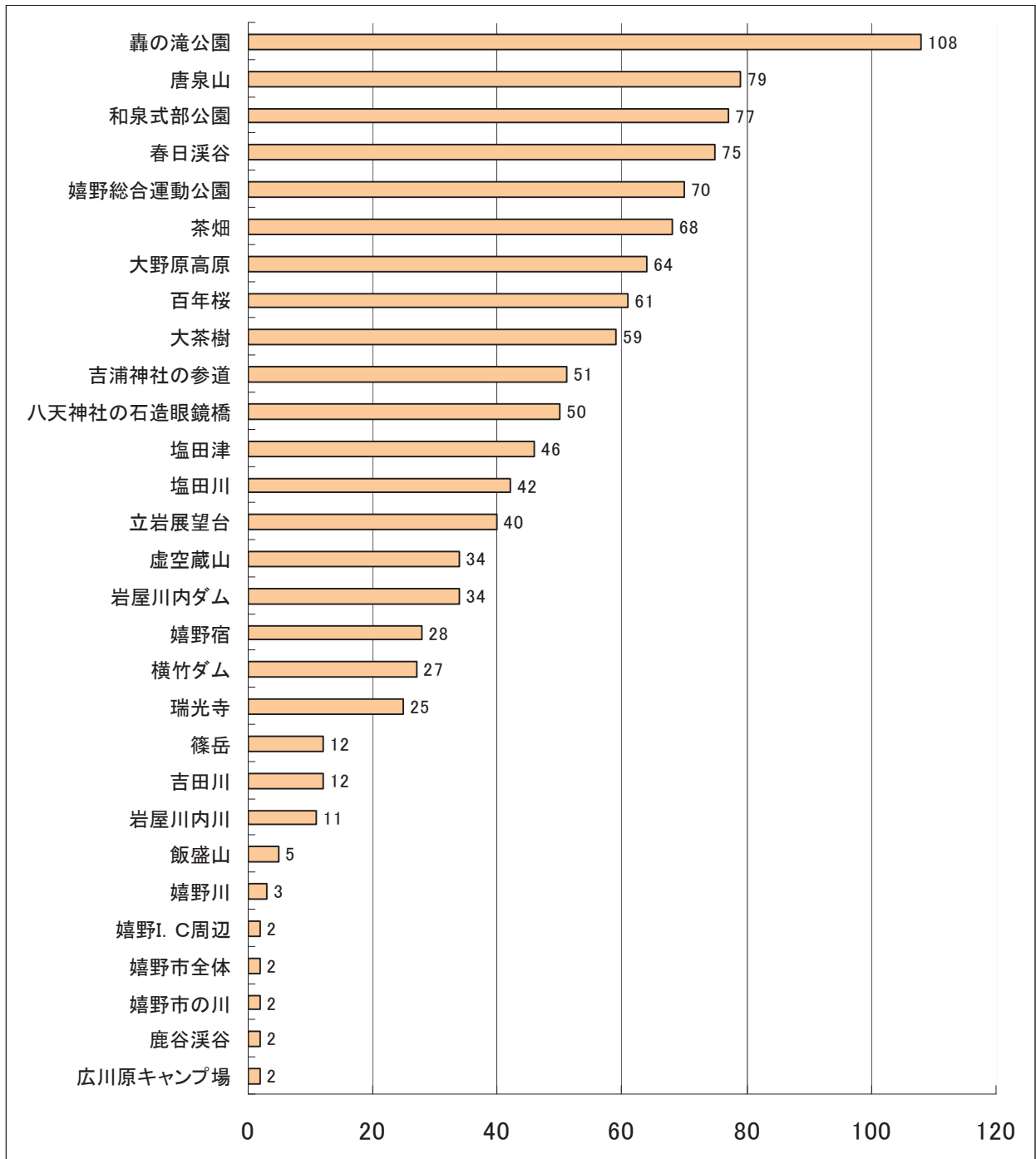
なお、このアンケート調査は高校生以上の市民を無作為に抽出し行ったもので、以下の結果は配布数 2500 人に対し、回収 702 人分のデータについてまとめたものである。

●市内の緑について(山、草原、田、川・湖等):将来に残したい緑・場所

【設問】環境保全やレクリエーション、景観、防災などに重要な役割を果たしている市内の緑や水辺等についてお聞きします。

- ① 将来に向けて残したいと思う嬉野市内の緑（山、草原、田、川、湖など）について、概ねの場所を図に示し、その場所と理由を簡単にご記入ください。（複数回答可）

市民のレクリエーションや憩いの場である轟の滝公園、和泉式部公園、嬉野総合運動公園が上位に挙げられ、唐泉山、塩田川をはじめとする河川、茶畑、高原、シンボルツリーである大茶樹、百年桜などの自然の緑が将来残したい緑として挙げられている。



【1件以下の少数意見】

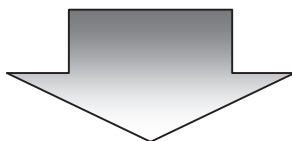
- ・ 北部公園
- ・ 豊玉姫神社
- ・ 吉浦川
- ・ 八幡川
- ・ 鷹ノ巣公園
- ・ 国見岳
- ・ 八幡神社
- ・ 権現夫婦岩山
- ・ 尊立寺
- ・ 滝の観音
- ・ 大草野小学校周辺
- ・ 22世紀アジアの森
- ・ 西湯岳
- ・ 塩田・久間
- ・ 新駅周辺
- ・ 国道34号沿道



■ 凡例

分類	表示
用途地域界	———
都市計画区域界	———
行政区域界	- - - - -

茶畑



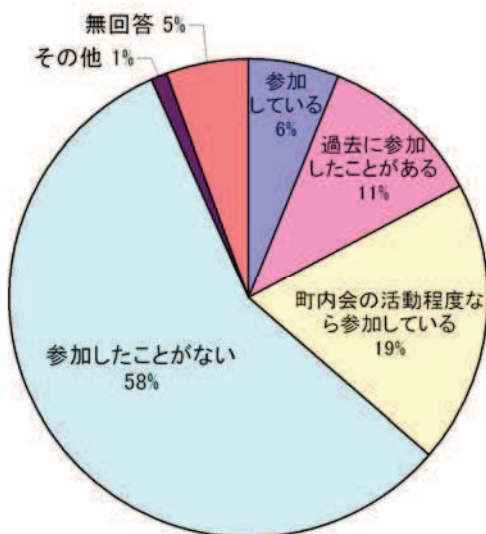
レクリエーションや憩いの場となる公園、自然を感じることでできる山や川、本市を代表する茶畑などを将来に残したいと思う気持ちは、市民が郷土に愛着を持ち、美しい自然を大事だと感じていることがうかがえる。

●緑化に関するボランティア・緑化活動について：参加状況・参加への意識

【設問】緑化に関するボランティア・市民活動についてお聞きします。

- ① 緑化に関するボランティア・市民活動の団体に参加されたことがありますか。
- ② それはどのような活動でしたか。内容などを簡潔にご記入ください。
- ③ 今後、公園や道路・河川等の植栽管理や清掃活動、里山を守るボランティア活動があれば参加しても良いと思いますか。

■参加状況■

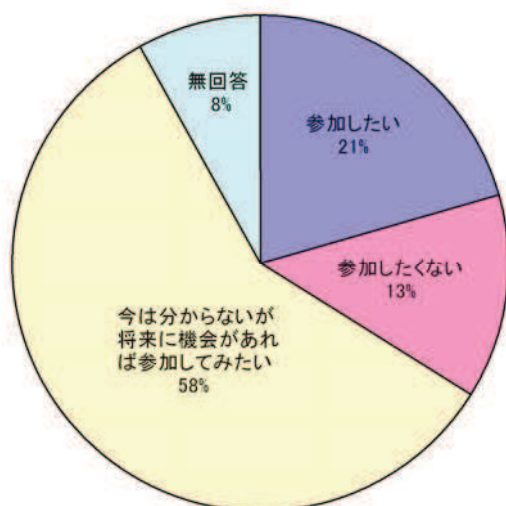


現在は、緑化活動への参加状況は市民の約6割の人が参加したことがなく、緑化活動に対してあまり積極的とはいえない状況

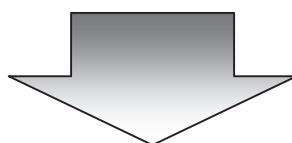
【参加した緑化活動の内容】

- ・花壇づくり
- ・地域の清掃活動
(川・道路などのゴミ拾い・空き缶拾い)
- ・山の植林・山の下払い
- ・神社の清掃 (落ち葉の清掃など)

■参加への意識■



市民の8割程度の人たちが、何らかのかたちで緑化活動に参加したいという興味がある。

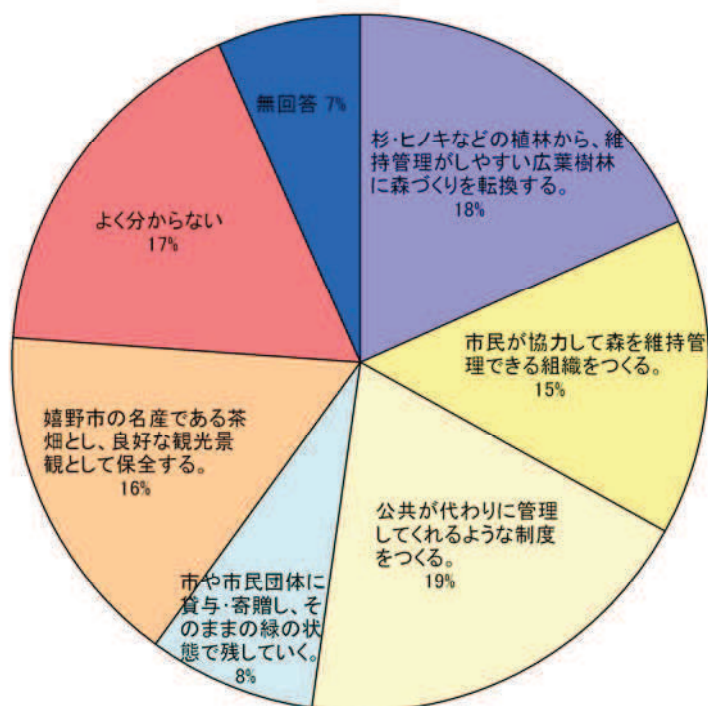


緑化活動への参加は必要だと感じながらも、どんな緑化活動が行われているのか、どんなことができるのかがわからないため、参加できていない状況がうかがえる。

●市内の山林について:保全・活用の取り組みについての意識

【設問】 山林の緑の維持・管理のありかたについてお聞きします。

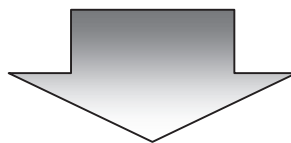
- ① 山林の緑については、担い手不足などによって維持・管理が難しくなっていますが、これらを良好な状態で将来に残していくための取り組みとして、あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選んでください。
- ② その他のご意見がございましたら、具体的にお書きください。



どの意見も 1.5~2 割程度で、様々な意見がある。

【その他の意見】

- ・個人の持ちものなので意見は言えない
- ・担い手不足なことが何よりも問題である
- ・ボランティア組織があるとよい
- ・NPO の設立
- ・山の管理は危険が伴うので、ボランティアでは難しいのでは・・・
- ・紅葉樹、落葉樹を植樹し、温泉とあわせ観光地を演出したい
- ・災害の危険がないようにしてほしい
- ・現在の環境を壊さないでほしい
- ・イノシシが多く、管理ができない
- ・官民一体となって協力することが必要など・・・



担い手不足となっている状況は否めず、所有者にいたっても様々な状況にあるため、維持・管理が充分に行えない状況である。これらの状況を改善するためには、官民が一体となった管理、運営が必要と考えられ、また、NPO 法人やボランティアの協力も必要と感じられていることがうかがえる。